

2020年度
入学試験問題

国 語

2月1日 午前

受験番号	氏 名

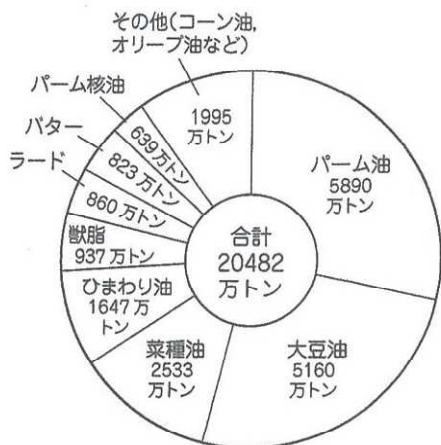
中村中学校

問題は次のページからです。

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 運動会は赤組のアツシヨウだった。
- (2) 小船でその島にジヨウリクした。
- (3) イタリアのゲキジヨウですばらしいオペラを見た。
- (4) お見まいにハナタバを持っていく。
- (5) テイデンは二時間続いた。
- (6) かれは、音に対するカンカクがするどい。
- (7) ロケットのき道をシュウセイした。
- (8) ようやく雨がやみ、日がテってきた。
- (9) 相手のけん幕におされて、一步シリゾク。
- (10) 話が理解されていないので、説明をオギナった。

図1 主要油脂生産量
(出典：Oil World 2017)



二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

世界の人口が増えるにつれて、油の消費が増えました。先進国では肥満に悩む人々を中心に、バターやラードなど動物性の油ではなく、「健康にいい」植物油が注目されるようになりました。

中でも、大豆油や菜種油に比べて値段が安いパーム油が人気を集めました(図1)。世界の生産量は、一九八〇年は四八〇万トンだったのが、二〇一七年には五八九〇万トンと、約四〇年間で

一〇倍以上に増えました。現在、その八割以上がインドネシアとマレーシアで生産されています。

ボルネオ島内を車で走りました。繁華街を過ぎて三〇分もすれば、道路沿いはア

ブラヤシ農園になります。かつては、さまざまな木が生い茂る熱帯雨林だったのです。すれ違うトラックには、収穫したアブラヤシの実が山積みされていました。絞った後のパーム油を港へ運ぶタンクローリーも、ひっきりなしに往来していました。

地元の人々にとってアブラヤシは、手取り早くお金になる「金の卵」です。でもその一方で、^①環境破壊の問題と社会的な問題が同時に起きています。

熱帯雨林が失われたことにより、貴重な野生生物やジャングルが守っていた生物多様性は損なわれました。一度開発されると、大量の肥料の影響で土地がやせてしまうため、熱帯雨林の再生はきわめて難しいのです。また、豊かな自然とともにあったそれまでの暮らしも変わりました。国境を越えてやってきた貧しい移民の人たちが農園で働き始めました。戸籍がなく学校にも行かない子どもたちも含まれています。世界的に問題視されている児童労働が見過ごされている現実もあります。

「パーム油? 聞いたことないよ」という人も多いでしょう。お菓子やカップラーメンの袋の裏側に印刷されている「原材料」の欄を読んでみましょう。「植物油」「植物油脂」と書いてあるものの多くは、実はパーム油です。赤ちゃん

が飲む粉ミルク、みんなが好きなたちチョコレートやドーナツ、フライドポテトやハンバーガーなどのファストフード、お弁当にはいつている冷凍食品、食べ物以外ではシャンプーやリンスや石けんなどにもパーム油は使われています。

日々の料理に使うサラダ油やオリーブ油などは違い、
X に使われることが多いため、消費者である私
たちからは見えにくいのです。「見えない油」と呼ばれる
ゆえんです。

最大の消費国は人口が急増しているインド。日本も年間
七万トン（二〇一七年）輸入しています。

パーム油の生産は、野生動物を二重の意味で脅かして
います。一つは、農園開発によつて熱帯雨林が減っている
こと。さらに近年、農園にボルネオゾウが入り込み、好物
のアブラヤシを食い荒らすため、人々は彼らを「害獣」
として嫌うようになりました。二〇一三年一月には、一四
頭ものゾウが集団で死んでいるのが見つかりました。毒殺
とみられています。マレーシアはいま、国として発展する
ために産業を育てることと、野生生物を保護するという、
相反する課題に直面しているのです。

② この難しい課題は、決してマレーシアの人たちだけの
ものではありません。パーム油を購入している私たち一人

一人に突きつけられた問題です。

どうすれば解決するか。もつとも単純な答えは「パーム
油をやめる」ことです。しかし、油脂は生きるのに必要な
栄養です。大豆や菜種に比べて安いパーム油は、

1 にとつては「命綱」とも言えます。
パーム油がなくなれば、
2 が
増えるかもしれません。
3 が
失業してしまう事態も考えられます。

4 が、パーム油を使った商
品を買わないようにするのはどうでしょう。現実的ではあ
りません。あまりにも多くの加工食品にパーム油が使われ
ているからです。だいたい、パーム油が使われていたとし
ても明示されていないことが多く、私たち消費者は、買
うか買わないかの判断ができないのです。

そんな中、「野生生物に優しい農園で採れたパーム油だ
けを使おう」という運動も始まりました。二〇〇四年、「持
続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」という国
際的な話し合いが始まりました。* プランテーションの経営
者やパーム油に加工する製油会社、輸出業者、パーム油を
使う食品メーカーなどの関係者に加えて、自然保護団体や
法律の専門家、政府関係者など、いろんな立場の人が参加
80

してルールを決めました。このルールを守って作られたパーム油は「認証油」と呼ばれます。

たとえば、ボルネオゾウやオランウータンが農園を横切らなくても熱帯雨林を移動できるよう、農園の敷地内に通り道を作ったり、幼い子どもや不法移民を低賃金で働かせたりしない農園などがRSPOの認証を受け、そこで採れたパーム油を使った製品には専用のシールを貼れるのです。価格は、そうでない商品より割高になってしまいが、許容できる値段ならば、消費者がそちらを選ぶことによつて、事態の悪化を防げるかもしれません。

野生生物保護のための行動も大切です。「寄付」です。

自然保護団体に直接寄付するだけでなく、日本ではキリンビバレッジの協力で、ジュースなどを買うと料金の一部を寄付できる支援自動販売機を、旭山動物園のほか全国二〇〇カ所に設置しています。私たちはジュースを定価で買うだけ。自動的に売り上げの一部が寄付に回されます。私がボルネオ島を訪ねた時、サバ州の熱帯雨林にボルネオゾウのレスキューセンターが完成しました。一〇コースの五〇メートルプールほどの広さがある、ひょうたん型のパドック(放牧場)では、メスのゾウが一頭、餌を食べていました。この施設は、プランテーションに迷い込むなど

100

ラブルを起こしたゾウを一時的に保護し、けがなどを治したあと、安心して過ごせる場所に移動させるための「ゾウの一時避難所」です。

約四八〇〇万円の建設費用は、日本からの寄付金でまかなわれました。設計は旭山動物園が担当し、地元の旭川市も一〇〇〇万円を寄付しました。キリンビバレッジは自動販売機を通して広く寄付金を集め、現地で発生するさまざまな手続きや建設作業は、大成建設と現地の子会社が担当しました。

地元・サバ州のアンブ野生生物局長は「経済発展も大切だけれど、自然を守ることはそれ以上に大切です。ここにくれば必ずボルネオゾウに会えるので、観光客も来るでしょう。子どもたちを連れてきて、熱帯雨林でいま何が起きているかを知ってもらうことも必要です」と話してくれました。

90

旭山動物園坂東園長は「毎年、一〇〇万人以上の人たちが旭山に来てくれる。ボルネオからやってきたオランウータンを見て「かわいいね」と喜んだ後は、彼らのふるさどが大変なことになっているということも知ってほしい」と言います。二〇一八年には、この活動が全国六カ所の動物園に広がりました。

120

110

パーム油を原料にさまざまな洗剤せんざいを作って四〇年になる
メーカーのサラヤ(大阪市)も、恩返しプロジェクトに参加
しています。

125

更家悠介社長は二〇〇四年、ボルネオの現状を、テレビ
番組のインタビュウで偶然ぐうぜん知りました。「手に優しい」「合
成洗剤と違って環境を汚よごさない」と宣伝し、自信を持つて
いた製品の原料が、野生生物を苦しめているなんて、と愕然がくぜん
としました。パーム油を使った商品の売上げの1%（年間
約一五〇〇万円）をボルネオの森林保護のために寄付し、
洗剤を買った人たちに呼びかけてボルネオを訪ねるツアー
も毎年実施じっししています。さきほど紹介しょうかいした「認証パーム
油」だけを使うようにするのはもちろんのことです。

130

「日本は昔から、家を建てるための木材や、自動車のタイ
ヤの原料になるゴムをボルネオから輸入してきました。そ
して今はパーム油という恩恵おんけいを受けています。そんな歴史
的な関係を振り返ふれば、恩返しするのは当然です」と、更
家さんは話します。

135

人間だけの都合で自然を壊こわしていけば、必ず人間がしつ
ぺ返しを食う。そうでなくても、健すこやかな形で地球を子孫
に残すのは、今を生きる人間たちの義務なのです。「野生
生物のふるさとを守りたい」という日本の人たちの思いが、

140

少しずつ形になり始めました。

（元村有希子『カガク力を強くする！』岩波書店）

145

※プランテーション……単一作物の大規模農業、および
その農園。

問一 〓 線「消費」の対義語を本文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問四

〓 線②とありますが、なぜ「難しい」かについて説明した次の文の（ 1 ）（ 3 ）に入る言葉を後の指示にしたがって答えなさい。

問二 〓 線①について、A「環境破壊の問題」と

B「社会的な問題」の具体的な内容を、それぞれ三十字以内で解答らんに合うように答えなさい。

（ 1 ）ことと（ 2 ）ことは共に大切だが、（ 3 ）させるのが難しいから。

※（ 1 ）は六字で、（ 2 ）は九字で本文中からぬき出しなさい。

※（ 3 ）は適当な言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

問三

X

〓 に入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、外食産業
- イ、せいせん生鮮食品
- ウ、大量生産
- エ、加工製品

- ア、両立
- イ、対立
- ウ、独立
- エ、自立

問五

1

4

に入る言葉として適当な

ものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア、栄養不足におちいる人たち
- イ、先進国の人々
- ウ、お金をかせいでいる人々
- エ、パーム油の生産現場で働いている人たち
- オ、貧しい人たち

問六

——線③とありますが、次のア～エの中には、

この「シール」をはれないものが一つあります。その記号を答えなさい。

- ア、敷地しきちの中にボルネオゾウやオランウータンが通るための道を作っている農園で採れたパーム油。
- イ、幼い子どもや不法移民を低い給料で働かせることがない農園で採れたパーム油。
- ウ、ボルネオゾウなどの野生生物を保護する資金にあてるために価格を割高にしたパーム油。
- エ、「持続可能なパーム油のための円卓会議」で決められたルールを守って作られたパーム油。

問七 ——— 線④とありますが、「まかなう」の使い方と

して正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、初めてレジ係をしたが失敗せずにまかなうことができた。

イ、その日の夕食は冷蔵庫にある食材だけでまか

なう、まかないきれないお金はむだづかいせず貯金しよう。

エ、急いでいるので時間をまかなわなければならない。

問九 ——— 線⑥とありますが、どのような点が「恩返

し」のですか。理由を記した次の文の（ 1 ）
（ 3 ）に、本文中からそれぞれ適当な言葉を
ぬき出して入れなさい。

日本はパーム油以外にも木材やゴムをボルネオから輸入している。たくさんの（ 1 ）を^{あた}与えてくれるボルネオに対して、売り上げの一部をボルネオの（ 2 ）のために寄付したり、（ 3 ）だけを使うこと^にしたりして、ボルネオにとってプラスに働く活動をしている点。

問八 ——— 線⑤の「ここ」はどこを指していますか。

具体的な場所を書きなさい。

問十 ——— 線⑦とありますが、具体的にどのようなこ

とが起こると考えられますか。また、そうならないために、今の私たちができることは何だと思えますか。あなたの考えを書きなさい。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

リサは足にやけどを負ったことがもとでいじめにあい、となり町のミヒロのいるクラスへ転校してきた。人との関わりをこばんでいたリサだったが、ミヒロの心づかいでミヒロとは仲良くなることができた。本文はリサの視点で書かれている。

おじいさんが言ったように、自分を好きになるには、どうしたらいいんだろうって考えた。

たぶん ^①宿題の「克服こくふくしたいこと」をやり終えたときに答えがでる。

そしたら、下を向かないで、堂々とまえを向いて歩ける。そしたら自分を好きになれるかもしれない。それには、この傷あとも自分の一部なんだと、うけ入れなくちゃいけない。

『グズグズ悩なやむより、声をあげたほうが生きやすい。きつと、手をさしだしてくるやつがいる』
おじいさんの言葉が頭によみがえった。

10

5

でも、手をさしだしてくれるやつって、だれ？

a ミヒロしかない。

そんなやつかないこと、ミヒロは引きうけてくれるだろうか。迷惑めいわくだつて思わないだろうか。

たのんでみるしかない。

まっすぐおじいさんの家に向かった。

木戸をおしたら、縁側えんがわにでたおじいさんが、笑顔えがおで迎むかえてくれた。

ミヒロの姿もあったから、ほっとした。もう **b** 親
しんだ家に、わたしはためらうことなくあがった。

「あのね」

c 迷ったけど、思いきつて言った。

「宿題がでたでしよ。克服こくふくしたいことつて」

「あ……うん」

「なんて書いた？」

「わ、わたし？ あ、あの、えつと……」

ミヒロは、困ったようにモジモジしている。

「なに？ どうかしたの？」

「あ、あの、えつと、えつとね、ごめん！ わたし、本間
リサって書きちゃった！」

ミヒロはペコンと頭をさげて、おずおずとわたしを見あ

30

25

20

15

げた。

「でも、仲良くなりたかったのは、うそじゃないからね！」

ムキになっているのが、おかしかった。

「あやまることないって。あのころのわたしって、すごくカンジわるかったと思うし、それに宿題のおかげで、ミヒロちゃんと友だちになれたんだから」

「怒^{おこ}ってない？ ああよかった！」

胸をおさえて、ミヒロは大きく息をついた。

「あ、もちろん、今はリサちゃん、すごくカンジいい女の子だよ。だから、えっと、わたしの宿題は、もうできちゃったっていうか……へへ、あ、で、リサちゃんはなんて書いたの？」

ミヒロは、いそいでわたしに質問を返した。

「うん、わたしはありのままの自分を受け入れることって書いた」

「あ……つと、それって」

「今は、傷あとをかくして、心臓がわるいって、うそついているじゃん」

「うん」

「そんな自分を変えたいんだ。傷あとも含^{ふく}めてわたしなん

だつて、胸をはって歩きたいの」

③ まっすぐに、ミヒロがわたしを見つめている。その目が、わたしの次の言葉を待って、大きくふくらんでいる。

「それで、ミヒロちゃんに、協力してもらえないかなあと
思つて」

「うん、わかった。なにをしたらいいの？ なんでもするよ」

迷うようすもなく、すぐに返事が返ってきた。迷惑というより、むしろうれしそうだった。

「サンキュ。まずは、傷をかくさないで歩こうと思う。そのとき、ミヒロちゃんがそばにいてくれたら、すごく心強いな」

「わかった。へんな目で見るやつがいたら、ブツとばしてやる」

「わっ、いさましい。逆に、ブツとばされないようにしな
くつちゃ」

二人で声をあげて笑った。

ミヒロに言つてよかつたと思つた。

ミヒロの提案で、まずはハイソックスをはかないで、買い物に行くことになった。

おじいさんに、必要なものをきいてメモをとつた。好き

なお菓子^{かし}を一個ずつ買っていていいぞと言われて、ミヒロは、
ヤッタ！ とはしゃいでいる。

わたしはハイソックスをぬいだ。

ひざ丈^{たけ}の白と黒のチェックのスカートに、素足^{すあし}でスニーカーをはいた。ふくらはぎのまわりが X、落ち
つかなかった。

そしたらミヒロが、

「リサちゃんて、どんな格好してもキマるんだね。傷があつてもなくても、やっぱリサちゃんはステキだよ」なんて言った。

わたしへのエールのつもりだろう。

行つてきます！ と自分をはげますようにかけ声をかけると、

「ああ、行つておいで」

と、おじいさんのおだやかな声が、送りだしてくれた。

「ええつと、なになに、歯みがき粉と、バナナと、麦茶と、
ドッグフードか」

ミヒロが、買い物メモを読みあげる。

「じゃあ、ドラッグストアのあずま屋がいいんじゃない。
なんでもあるし」

あずま屋は、品物がそろっていて安いので、いつもお客

さんであふれているのだ。

「でも、いきなり大きな店に行つて、だいじょうぶ？
だれに会うかわかんないよ」

ミヒロが、心配そうな顔を向ける。

「うん、やってみる」

「よし。じゃあ出発！」

距離^{きょり}にしたたら、五分足らずの場所だった。

「だけどわたしにしたたら、
Y、不

安だらけの気持ちだった。

自動扉^{とびら}にすいこまれるように中に入ると、お年寄りから子どもまで、いろんな人がいた。ミヒロが、そなえつけのカゴをもつて歩きだしたので、いそいで、そのうしろをついていった。

だれも、わたしの足を見ている人はいなかった。みんな、自分の買い物^かのことでいっぱいみたいだった。

買い物カゴには、バナナと、麦茶と、ドッグフードが入っていた。あとは歯みがき粉と、わたしたちのお菓子だ。

歯みがき粉は、どれがいいかわからなかったの、さんざん迷ったすえ、歯こうを予防するとうのにした。

やっとお菓子の通路へ入ったときだった。

小学生くらいの女の子が、三人かたまっているのが目に

入った。

なんだかいやな予感がした。

近づくとつれて、すがたがはっきりしてきた。あの三人組だった。

120

足をとめたわたしに、どうしたの？ とミヒロがふり返った。

わたしは、イヤイヤをするように首をふった。わたしの視線の先を見て、ミヒロは意味をさとしたみたいだった。

もっていたカゴを、左手にもちかえると、わたしの手をギョツとにぎった。

125

「行こう」

そう言つて歩きだした。

「ねえ、リサちゃん、どれにする？」

ミヒロは、棚たなに並んだお菓子をながめては、わざわざわたしの名前を呼んだ。

130

三人が、気づかないはずがなかった。

「リサちゃん」

コズエの声だった。

三人の視線が、こつちに集まった。

135

「やだ、まだこのへんウロついてんのお」

「わっ、足まるだしじゃん。不気味い」

「キモイよお。見たくないよお」

「あつちに行つてつてば」

④ 歯をくいしばった。

こみあげてくるにがいものを、なんとか飲みくだそうとした。だけど、のどにはりついたままで、おりていかない。

たった今気がついたように、ミヒロが三人のほうを見た。

上から下まで、しげしげとながめたあと、首をつきだして、

スンスンと鼻を鳴らした。

145

「この人たちだったら、なんてくさいんだろ」

あきれたように首をふった。

「なんだって！」

三人がいきりたつた声をあげた。

「あなたたちの心、くさってるよ。ぶんぶんにおいがしてる。自分で気がついてる？」

150

まゆをひそめて、首をかしげた。

「早めに手当したほうがいいと思うよ。手おくれになるまえに」

それだけ言うと、ミヒロはわたしの手をグイと引いて、

155

スタスタと歩きだした。

「なに、あいつ」

「ふざけんなって」

「マジむかつく」

うしろで、口ぐちに悪態をつくのがきこえてくる。

それをしり目に、ミヒロはさっさとレジに行き、会計をすませると、とつとと出口に向かった。あわててわたしも、そのあとを追いかけた。

「すごい、ミヒロちゃん。あの子たち相手に、あんなスゴワザつかって」

「待つて。まだ心臓がドクドクしてるの」

ミヒロは、両手で胸をおさえて、大きく息をすいこんだ。その顔が次第しだいにゆがんで、がまんできないように笑いだし

た。
「見た？ あの子たちの顔。ロクがとなりの猫ねこに、エサを

さらわれたときみたいなの顔してたよ」

ミヒロの笑いが、わたしにも伝染でんせんして、二人でおなか

痛くなるまで笑った。

笑いながら、わたしはおじいさんの言葉が、すんなり胸

に入ってくるのを感じた。
『人を傷つけるのも人だが、なおしてくれるのも人なんだよ』

わたしは、ミヒロに心の傷をなおしてもらっているんだ
と思つた。

160

165

170

175

おじいさんのうちに帰って、買った品物をだしたら、ちやんとお菓子も入っていたので、またびつくりした。

「だって、せつかくおごつてくれるっていう、おじいちゃん⑤の気持ち、ふいにしたくないし」

ミヒロといると、固くよじれたわたしの心が、ほろほろとほぐれていくようだ。

次に行ったのは、図書館だった。

夏休みの図書館は、すごく混んでいた。

とくに児童書のコーナーは子どもたちでいっぱいだった。

わたしには、借りたい本があった。

日本でアニメ映画にもなったイギリスの翻訳本ほんやくだ。ママもすすめてくれたので、読んでみたかったけど、あいにく

この本は貸し出し中だった。

カウンターで予約の手続きをして、もどろうとしたら、うしろに並んでいた男子が、じいっとわたしの足を見ていた。

わたしと目が合うと、あわててちがうほうを向いた。歩

きだしたけど、きつとうしろから見てるにちがいない。
こういう視線に、慣れなくちゃいけないんだ。いちいち⑥動揺どうようしないように、心をきたえなくちゃ。

180

185

190

195

200

わたしたちは、気に入った本を三冊ずつ借りた。ミヒロは、SFとかミステリーが好きらしく、探偵団とか、宇宙船とかのタイトルがついた本をかかえている。

出口に向かうとちゆう、知った顔を見かけた。いすにすわって、熱心に本を読んでいる。

まえの学校で、仲がよかったあやかだった。やけどをしたあとは、わたしからはなれて、三人組の側についた。いっしょになって、わたしを笑った。

思わず顔をそらしたけど、すぐにいけないと思いなおした。自分から先に顔をそらすようでは、ちつとも変わったことにならない。

「ちよつと用ができたから、先に行つてて」

ミヒロにことわつて、わたしはあやかに近づいていった。

「こんにちは」

わたしは、あやかに顔をよせて言った。

顔をあげてわたしを見たたん、あやかはギョツとしたようにからだを引いた。

「ひさしぶり。元気？」

「う、うん……」

顔が引きつっている。

「そう、よかった。わたしも元気だから、心配しないでい

220

215

205

210

いよ。じゃあね」

それだけ言つて、ミヒロのあとを追いかけた。

「なんだつたの？ 用つて？」

わたしをふり返つて、ミヒロがきく。

「なんか、すぐくスッキリした顔してるよ」

⑦ 胸の底に、澱おひのように積もっていたものが、すっかり

過された気分だった。

「うん、今日は成果があつたかも」

「へえ」

ミヒロが目を光らせて、わたしを見つめる。

（朝比奈蓉子「わたしの苦手なあの子」ポプラ社）

230

225

問一 ——— 線①とありますが、リサが宿題とした「克服したいこと」とはどんなことですか。本文から十六字でぬき出して答えなさい。

問二 に入る適当な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア、すつかり
- イ、ようやく
- ウ、もちろん
- エ、しばらく

問三 ——— 線②とありますが、ミヒロの宿題ができたというの、具体的にはどういうことですか。説明しなさい。

問四 ——— 線③とありますが、このときのミヒロの気持ちとして、ふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、リサが本当に自分を変えられるか心配する気持ち。
- イ、リサの強い決心に対し、応援おうえんしたいと思う気持ち。
- ウ、リサも課題を克服してほしいと期待する気持ち。
- エ、リサが難しい課題に挑いどもうとしていることに感心する気持ち。

問五 にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、もどかしくて
- イ、危なげなくて
- ウ、たよりなくて
- エ、うっとうしくて

問六

Y

にあてはまる比喩表現として最も適当な

ものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、ひとりで留守番をしているような
- イ、なかなか来ないバスを待つような
- ウ、なにか忘れ物をしているような
- エ、未知の場へ乗りこむような

問七

——線④とありますが、このときのリサの様子を

説明したものととして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、つらく苦しい思いをおさえようとしているが、思うようにおさえきれない。
- イ、怒りからなんとかして相手を攻撃したいが、大勢で言われると言いつ返しえない。
- ウ、怖くて助けを呼びたいが、身動き一つできず、声も出せずで、固まってしまふ。
- エ、悲しくて今にも泣き出してしまふそうだが、必死に気持ちを落ち着かせている。

問八

——線⑤とありますが、これとほぼ同じ内容を表

している部分を、本文から十八字でぬき出して答えなさい。

問九

——線⑥のように思ったリサが、この後「あやか」を見かけてとつた行動を次のようにまとめました。

(1) (2) にあてはまる内容をそれぞれ答えなさい。

最初 (1) (2) が、それでは変わつ

たことにならないと思います、()。

問十

——線⑦の比ゆは、どのようなことをたとえていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、苦しい思い出に耐^たえているうちに、相手の気持ちに変化が見られ、自信を持つことができた。

イ、つらい思い出を引きずっていたが、自分から問題を解決しようとふみ出したことで、心の負担が軽くなった。

ウ、不満に耐えて我慢^{がまん}してきたが、それが報^{むく}われて、みんなから温かい声をかけてもらえるようになった。

エ、いやな思い出のある三人組を避^さけていたが、正面から向き合うことができ、気持ちがあつきりした。

問十一

——線⑧とありますが、リサは今日のどの場面を「成果」としてふり返っているのですか。その「成果」の内容を二つ挙げ、それぞれ二十字以内で答えなさい。

以下余白です。